

北風と太陽

教育目標 「礼儀正しく、ねばり強く学び、共に高め合う生徒の育成」
校 是 天に星 地に花 人に愛 「共に美しく」 (文責:小笠原)

満点の星、半弦の月のもと 「つなぐ」の文字が! ? ～笑顔で迎えてくれた人、涙ながらに話す人～

17号でもお知らせしましたが、「合川まと火交流プロジェクト2013」事業の一環として、合中生32名とまと火保存会・合川婦人会・合川中PTAの方々19名が岩手県山田町を訪問してきました。10月12日(土)～14日(月)の2泊3日の日程でしたが、3日間ともさわやかな秋晴れに恵まれ、スケジュールを予定通り実施することができました。映像や写真でしか見たことがない震災や現地の様子を、自分の目で見て、被災者と直接話をして、交流をもつことができたことは、子どもたちにとって何よりも貴重な体験(財産)となったと思います。涙ながらに当時の様子を話す人々や笑顔で「ありがとう」と言ってくれた人から、様々な思いを感じ取ってくれたのではないのでしょうか。「生きているうちに仮設住宅を出られるかわからない」と言ったおばあさんの言葉がとても印象に残り、日常生活を普通に送れることは、何よりの幸福であるという思いを強くしました。

10月12日(土)

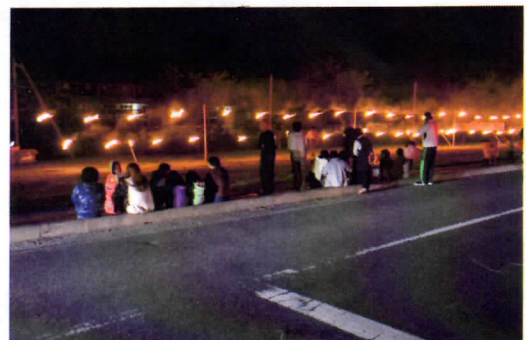
- 津波に多くの人のみ込まれた旧大槌町役場で献花合掌。
- 仮設住宅と町役場にて、プロジェクトのチラシを配布しながら町民との交流。(涙を流しながら、当時の様子を語る人も……)
- 山田町竜泉寺で団結セレモニーを行った際に、お寺周辺の自治会の人たちと住職さんから、震災の話聞く。(目の前で多くの人や車が津波に飲み込まれていく光景が今でも目に浮かぶと話すおばあさんも。)その後、座禅体験も。



大槌町役場前の祭壇で合掌

10月13日(日)

- 会場近くの仮設住宅を訪問し、チラシを配布しながら被災者との交流。(中には家の中を見せてくれる被災者も。)
- 陸中海岸青少年の家で、現地の小中学生や住民とまと火の道具作りやだまこ鍋作りの体験交流。
- だまこ鍋交流とまと火の実演。気温12度と震える寒さの中、最後まで笑顔で住民の方々へのおもなし。会場には500名もの人々。



まと火を見学する人々

10月14日(月)

- 山田町立船越小学校(被災し新築中の学校)を視察。(船越小は標高20m以上の高さにあるが、学校の2階まで津波が襲う。)
- 平泉宣先生の話。(大館市出身:山田病院の副院長。震災で自宅や勤務している病院も被災したが、その直後から避難所を回り、住民を無料で診察、「赤ひげ先生」と呼ばれ、被災者を元気づけた。山田町の震災遺児のために「鈴木善幸教育基金」の設立に尽力。)学校祭のバザーの売上金と募金を平泉先生へ贈呈。